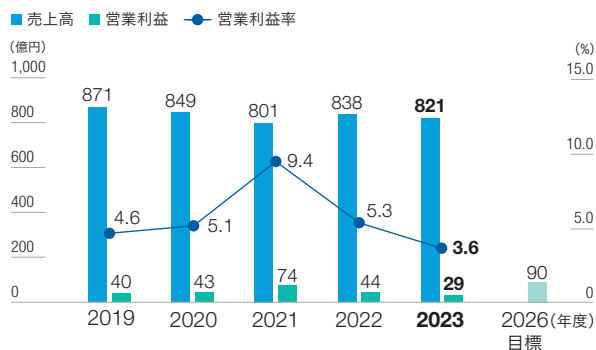
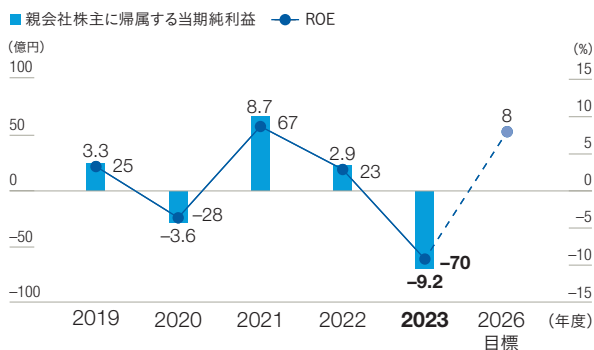


売上高／営業利益／営業利益率



2023年度の売上高は販売数量の減少を単価の上昇で補うことで維持しているものの、工場稼働率の低下による製造原価単価の上昇によって営業利益が減少しました。今後、成長事業を大きく伸ばしていくことで営業利益を拡大していきます。

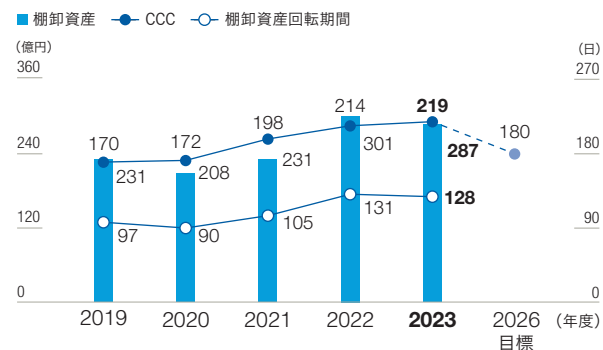
親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



2023年度は、繰延税金資産の取り崩しと減損損失の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナスとなりました。

ROE: 自己資本利益率

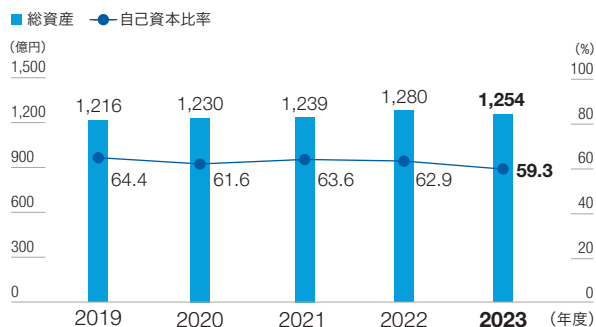
棚卸資産／CCC／棚卸資産回転期間



原材料価格の高騰などにより製造原価が上昇したため、棚卸資産の金額が高水準となりました。これによりCCC、棚卸資産回転期間が悪化しています。今後は、棚卸資産を削減することにより、これらの指標の改善を図ります。

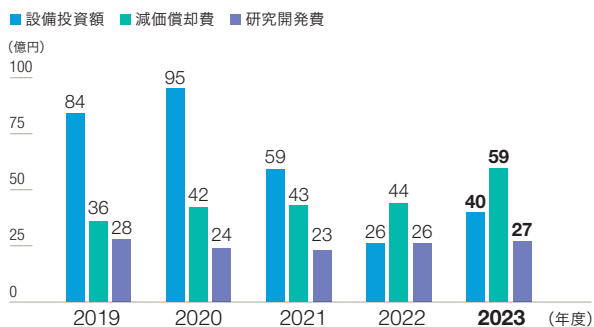
CCC: キャッシュ・コンバージョン・サイクル
(売上債権回転期間+棚卸資産回転期間-仕入債務回転期間)

総資産／自己資本比率



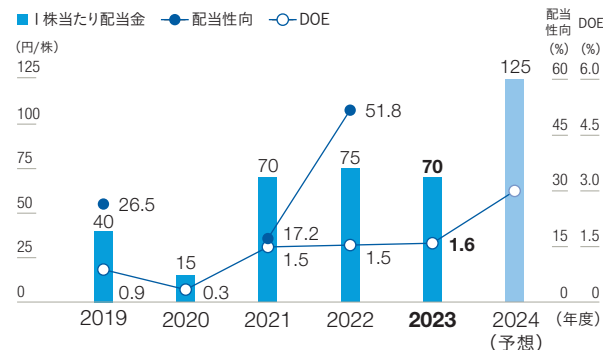
約60%の自己資本比率を有し、財務の安定性を維持しています。

設備投資額／減価償却費／研究開発費



2019年度、2020年度に、成長事業である電子材料事業や化粧品材料事業で大型の設備投資を行いました。研究開発費は比較的安定的に推移しています。

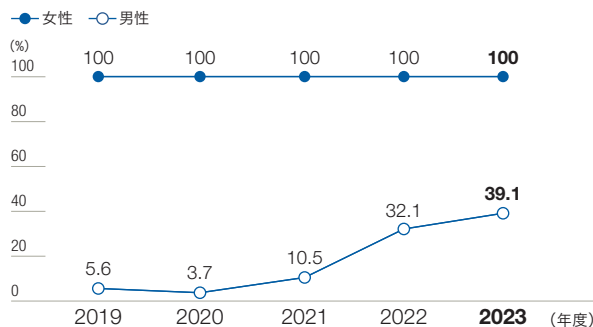
株当たり配当金／配当性向／DOE



これまでは配当性向30%を目安に配当を実施してきましたが、2024年度からはDOE3%を目安に配当を実施します。今後も安定した株主還元を継続していきます。

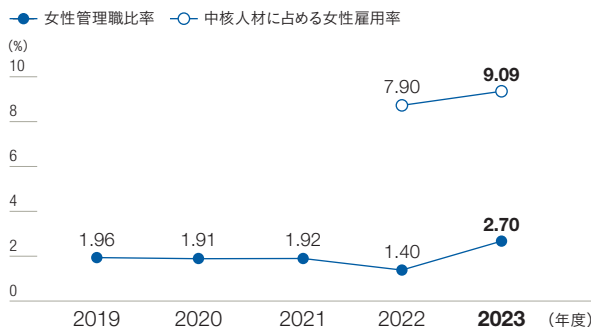
DOE: 自己資本配当率

男女育児休業取得率(単体)



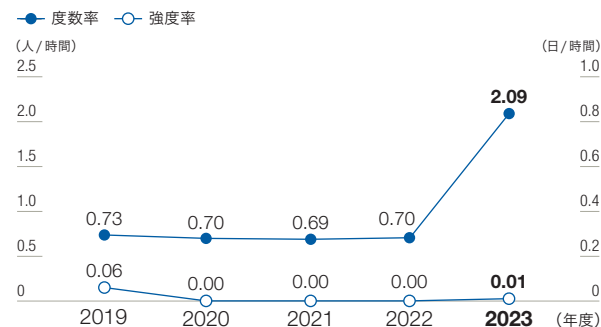
女性については、全ての対象者が育児休業を取得しています。男性については、職場の理解浸透もあり、取得率は向上しています。

女性管理職比率／中核人材に占める女性雇用率(単体)



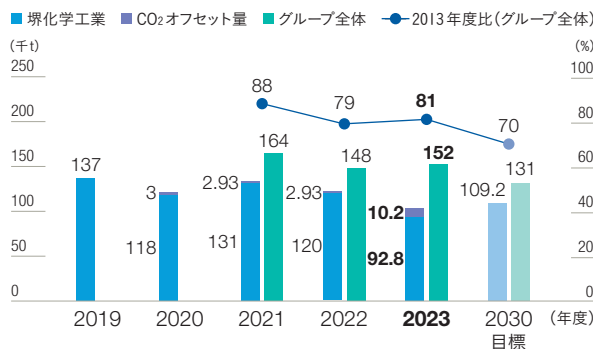
女性従業員の絶対数が少ないこともあり、低い状態が続いています。女性がキャリアアップを目指せる体制を整え、能力に応じた適切な登用を進めていきます。
中核人材：管理職手前の中堅層以上(管理職を含む)

度数率／強度率(単体)



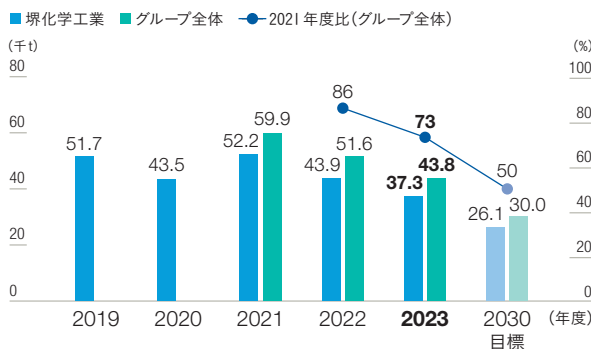
2023年度の休業災害は前年度から2件増え、3件発生しました。休業災害を基にした度数率、強度率共に前年度に比べ上昇しました。
今後は経営陣から現場の従業員まで一丸となって安全対策を再度徹底するとともに、安全教育の強化などを図っていきます。

CO₂排出量／2013年度比



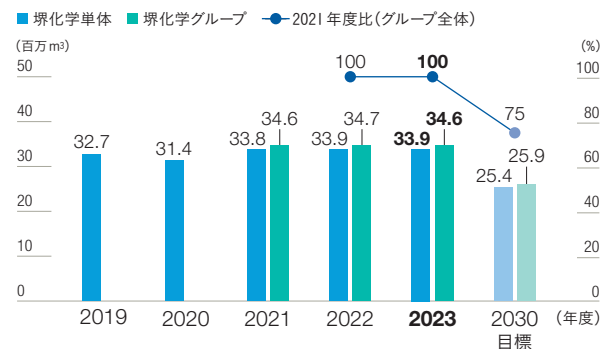
2023年度のCO₂排出量は152千トンとなり、前年度比4千トン増となりました。カーボンオフセット都市ガスや再生可能エネルギー利用拡大を進めていながら、堺化学グループ全体での削減に引き続き取り組んでいきます。

産業廃棄物排出量／2021年度比



2023年度の産業廃棄物排出量は43.8千トンとなり、前年度比7.8千トン減となりました。排出量の大半は酸化チタンの生産過程で発生する廃棄物汚泥ですが、2025年度には顔料級酸化チタンの事業を終了することで削減できる見込みです。

水使用量／2021年度比



2023年度の水使用量は34.6千立方メートルとなりました。使用量の60%以上が海水で、主に酸化チタンの生産で利用していますが、2025年度に顔料級酸化チタンの事業を終了することで削減できる見込みです。